

中口首脳が対米欧で結束示す 中東情勢も議論、新たな国際秩序を主張



訪中しているロシアのプーチン大統領が18日、北京で習近平（シーチンピン）国家主席と会談した。ロシア大統領府によると、プーチン氏は会談の冒頭、「今年の中ロ貿易額を2千億ドル（約30兆円）にする目標は間違いなく超える」と強調。ロシアのウクライナ侵攻が続くなか、中ロが米欧に対抗して結束を示す場となった。

【写真】ロシア側で初の日本人義勇兵か 「義はロシアにある」SNSに動画

プーチン氏が旧ソ連圏以外へ出るのは、国際刑事裁判所（ICC）がウクライナ侵攻を巡って3月に逮捕状を出してから初めて。中国はICCに加盟していない。

プーチン氏は中国の巨大経済圏構想「一帯一路」の国際フォーラムに出席するため訪中した。北京を訪れるのは2022年2月の北京冬季五輪開会式以来。この機会に習氏と会談し、その20日後にウクライナへの侵攻を始めた。

中国国営中央テレビによると、習氏は首脳会談の冒頭、「ロシアとともに国際的な公平と正義を守りたい」と述べた。ウクライナへ侵攻したロシアへの批判を強める米欧中心の秩序とは一線を画した。

■プーチン氏「紛争の早期終結への警告」

プーチン氏は記者会見で、3時間に及んだ習氏との会談で中東情勢について議論したとし、「（病院爆発が）紛争の早急な終結が必要との警告になることを願っている」と述べた。また訪中前、イスラエルのネタニヤフ首相やパレスチナ自治政府のアッバス議長らと電話協議したことを踏まえ、「紛争が拡大し、大規模な戦争になる覚悟は誰もできていないようだった」と語り、停戦への期待を示した。

